

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

被告人Aの弁護士松原新一の上告趣意（後記）は、刑訴四〇五条の上告理由にあ
たらない。

被告人Bの弁護士福井正二の上告趣意（後記）について。

刑の執行猶予の言渡をしなかつたからといって、憲法一三条に保障する人権を侵
害したものといえないことは、既に当裁判所の判例とするところであつて、論旨は
理由がない（昭和二二年（れ）第二〇一号同二三年三月二四日大法廷判決参照）

なお、記録を調べても、本件につき刑訴四一一条を適用すべきものとは認められ
ない。

よつて、刑訴四〇八条に従い、裁判官全員一致の意見を以つて、主文のとおり判
決する。

昭和二七年二月一五日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎